

論文内容の要約

保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程 作業療法学分野		平成29年4月4日入学	
学籍番号	2176003	令和3年3月12日修了	
氏名	川勝 祐貴	主研究指導教員	平山 和美
論文題目	Development of the Japanese version of the Engagement in Meaningful Activities Survey and evaluation of its reliability and validity among the community-dwelling older adults		
<p>【背景】</p> <p>高齢者が日々の活動に参加することは、主観的健康感や主観的幸福感の向上、生きがい形成の実現に寄与するという観点から重要である¹⁾。高齢者の能力や意欲が十分に発揮される場を増やすこと、高齢者がそれらの場へ参加することを促進することは、高齢者の健康増進に有用な手段である。</p> <p>高齢者の活動への参加を促進するためには、高齢者が活動に対して感じる”意義”を知り、それを感じられる場を増やすことが重要である。“意義”は、個人が活動に対して感じるもの²⁾であり、所属感、自律性、自己肯定感、喜び、満足感などがある³⁾。このような活動に対する意義を網羅的に評価する尺度は日本に存在しない。欧米には、現在の活動に対する意義を12の側面から測定できる Engagement in Meaningful Activities Survey (EMAS)がある⁴⁾。EMASは、全12項目、60点満点の尺度であり、2因子構造(第1因子;個人能力成分[項目番号1-5],第2因子:社会経験成分[項目番号6-12])、信頼性・妥当性が確認されている⁵⁾。</p> <p>【目的】</p> <p>本研究の目的は、日本語版 EMAS (EMAS-J) を作成し、地域在住高齢者における信頼性と妥当性を検討することである。</p> <p>【方法】</p> <p>東北地方の65歳以上の地域在住者を対象に質問紙調査を実施した。調査内容は、原版を翻訳して作成した EMAS-J、基本情報(性別、年齢、同居家族の有無)のほか、収束的妥当性を検討するために、MOS 36-Item Short-Form Health Survey version 2 (SF-36v2)、Center for Epidemiologic Studies Depression Scale, Meaning in Life Questionnaire (MLQ) を実施した。さらに、再検査信頼性を検討するため、調査の2週間後、郵送法により EMAS-J の再調査を実施した。</p> <p>【分析】</p> <p>基本情報と各尺度の記述統計を行った。また、EMAS-J の α 係数、調査時と再調査時の EMAS-J の重み付け κ 係数を算出した。</p>			

さらに EMAS-J の探索的因子分析（主因子法，プロマックス回転）を行った．その後，今回取得したデータを用いて，先行研究⁵⁾で示された 2 因子構造モデルと本研究にて抽出された因子構造モデルの両方について，確証的因子分析を行った．

加えて，収束的妥当性を検討するために，EMAS-J と各尺度の相関係数を算出した．

【結果】

本研究には 83 名（男性 34 名，女性 49 名）の地域在住高齢者が参加した．年齢は 65 歳から 92 歳であり，中央値は 77.0 歳，四分位範囲は 70.0～80.0 歳であった．このうち同意の得られた 69 名に再調査を実施した．内的一貫性（ α 係数）は 0.89，再検査信頼性（重みづけ κ 係数）は 0.68（95%信頼区間: 0.56-0.81, $p < .01$ ）であった．

探索的因子分析の結果，先行研究⁵⁾とは異なる 3 因子（第 1 因子：ポジティブ感情成分 [項目番号 4, 8, 9, 10, 11, 12]，第 2 因子：個人能力成分 [項目番号 3,5,6,7]，第 3 因子：個人自律性成分 [項目番号 1,2]）が抽出された．確証的因子分析の結果，先行研究⁵⁾で示された 2 因子構造モデルの適合度指標は不良（CFI = 0.782, TLI = 0.728, RMSEA = 0.153）であったが，今回抽出された 3 因子構造モデルは良好（CFI = 0.912, TLI = 0.886, RMSEA = 0.099）であった．

収束的妥当性は，EMAS-J と SF-36v2 の役割／社会的側面の QOL サマリースコア（ $r_s = .24$, $p < .05$ ），EMAS-J と MLQ の保有（ $r_s = .45$, $p < .01$ ）と探求（ $r_s = .34$, $p < .01$ ）との間で有意であった．

【考察】

EMAS-J は，高い内的一貫性と再検査信頼性を有する尺度と考えられる．EMAS の信頼性について，先行研究⁵⁾では，高い内的一貫性（ $\alpha = 0.89$ ），中等度の再検査信頼性（ $r = 0.56$, $p < .01$ ）が報告されている．EMAS-J は，これと比較し同等もしくは良好な尺度特性を示した．

また，EMAS-J では，先行研究⁵⁾で示された 2 因子構造とは異なる 3 因子が抽出された．この 3 因子は基本的心理欲求の 3 因子（有能さ，関係性，自律性）⁶⁾と対応していると解釈できる．意義ある活動は，基本的心理欲求の 3 因子を満たし，幸福を促進すると考えられている⁷⁾．また，本研究では，項目番号 6（他の人の役に立つ）と項目番号 7（他人に評価されている）は第 2 因子として抽出されたが，先行研究⁵⁾では第 1 因子として抽出された．これは，日米の文化的自己観の違い⁸⁾によるものと考えられる．確証的因子分析において，先行研究⁵⁾の 2 因子モデルの適合度指標は不良であったが，本研究で抽出された 3 因子構造は良好であったことから，この 3 因子構造が EMAS-J に最も適した因子構造であると判断した．

最後に，EMAS-J と SF-36v2 との間には先行研究⁵⁾と同様の弱い相関があり，MLQ の保有との間には中等度の相関，探求との間には弱い相関が認められた．これらの結果は，収束的妥当性を保証するものである．

【結語】

原版を翻訳して EMAS-J を作成した。さらに地域在住高齢者を対象にした調査を行い、その結果、EMAS-J は、信頼性、妥当性ともに、日本の高齢者への実用に耐えうる水準であることが示された。今後、高齢者の活動に対する意義を測る尺度として幅広く活用されることが望まれる。

【文献】

1. Kielhofner G: Conceptual foundations of occupational therapy practice (4th Edn), Philadelphia: F.A. Davis Company; 2009.
2. Nelson DL: Why the profession of occupational therapy will flourish in the 21st century. *Am J Occup Ther*, 1997;51(1):11-24. DOI: 10.5014/ajot.51.1.11
3. Eakman AM, Atler KE, Rumble M, Gee BM, Romriell B, Hardy N: A qualitative research synthesis of positive subjective experiences in occupation from the *Journal of Occupational Science* (1993–2010). *J Occup Sci*, 2018;25(3):346-367. DOI: 10.1080/14427591.2018.1492958
4. Goldberg B, Brintnell ES, Goldberg J: The relationship between engagement in meaningful activities and quality of life in persons disabled by mental illness. *Occup Ther Ment Health*, 2002;18(2):17-44. DOI: 10.1300/J004v18n02_03
5. Eakman AM, Carlson M, Clark F: Factor structure, reliability and convergent validity of the engagement in meaningful activities survey for older adults. *OTJR (Thorofare N J)*, 2010;30(3):111-121. DOI: 10.3928/15394492-20090518-01
6. Vansteenkiste M, Ryan RM, Soenens B: Basic psychological need theory: Advancements, critical themes, and future directions. *Motiv Emot*, 2020;44(1):1-31. DOI: 10.1007/s11031-019-09818-1
7. Eakman AM: Relationships between meaningful activity, basic psychological needs, and meaning in life: test of the meaningful activity and life meaning model. *OTJR (Thorofare N J)*, 2013;33(2):100-109. DOI: 10.3928/15394492-20130222-02
8. Markus HR, Kitayama S: Culture and the self: implications for cognition, emotion, and motivation. *Psychol Rev*, 1991;98(2):224-253. DOI: 10.1037/0033-295X.98.2.224